

令和6年度 学校法人菊地学園 認定こども園しらこぼと幼稚園 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰らなければならないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	B
	子どもへの介助は、言葉をかけてからしている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	B
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉がけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉がけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉がけにならないようにしている	B
	次の活動に期待が持てるような言葉がけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A	
子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A	
人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	B	
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉がけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはしない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	B
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	A
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	B
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」などと云ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えに来る保護者に「いつもぎりぎりですね」と云ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と云ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
地域貢献	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A

保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識をして指導している

A

園長所感

評価を見ると「大変良い」の項目が多いと感じた。だが職員一人ひとりでみた場合は、良い評価に至っていない部分もあるため、現状に安心することなく「大変良い」となっている評価項目でも、より質を高められるよう園全体で引き続き取り組む。

令和6年度 学校法人菊地学園 しらこばと附属保育園大袋駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	B
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	B
	園から出るときや公園から帰らなければならないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	B
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	B
	子どもへの介助は、言葉をかけてからしている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	B
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	B
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉がけを常に心がけている	B
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉がけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉がけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉がけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	B
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	B
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	B
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	B
	食材に興味を持てるような言葉がけや、環境の工夫をしている	B
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	B
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはしない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	B
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	B
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	B
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見直しを持って日々の保育にあたっている	B
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	B
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引き継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	B
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	B
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	B
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	B
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」などと云ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えに来る保護者に「いつもぎりぎりですね」と云ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と云ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
地域貢献	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	B
	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A

保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識をして指導している

A

園長所感

自己評価をする事で自らの行動や考え方を見つめ直し、改善点や課題を明確にして達成に向けた計画を立てることができたと感じる。また、学園の理念、方針、目標を理解し、一人ひとりに寄り添ったいい保育を実践できるよう今後も職員全員で丁寧に振り返りを行っていくことが大事だと認識した。全体としては改善点を把握し、安心安全な保育、園全体の保育の質向上に繋げるため研修やキャリアアップ等が受講できる環境を整え、B評価だったところをA評価へと繋げることが必要だと感じました。

-
-
-
-

令和6年度 学校法人菊地学園 しらこばと附属保育園せんげん台駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	B
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰らなければならないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからしている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉がけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉がけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉がけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉がけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A	
子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A	
人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A	
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉がけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはしない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	A
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見直しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引き継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」などと云ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えに来る保護者に「いつもぎりぎりですね」と云ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と云ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
地域貢献	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A

保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識をして指導している

B

園長所感

評価は全体的に「大変良い」が多いが、学園の理念・方針・目標を常に意識し保育を提供していくことを更に心掛ける。また、主体的な保育・ていねいな保育を行う上で『子どもの思いを尊重』し、『子どもの人権擁護』について意識を高め、今後も保育の振り返りを大事にする。

安全管理については、職員同士の連携、スキルアップを目指し常に安心・安全な保育を提供できるよう気を引き締めて取り組む。今後、全てにおいて『大変良い』の評価となるようより良い保育の提供ができるように職員全員で努力する。

令和6年度 学校法人菊地学園 しらこばと附属保育園北越谷駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	B
主体的な保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰らなければならないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	B
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからしている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	B
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉がけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉がけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉がけにならないようにしている	B
	次の活動に期待が持てるような言葉がけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	B
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	B
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	B
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A	
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉がけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
	食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはしない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	B
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	B
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引き継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	B
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやつて。できないなら後ろに行って。」などと云ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えに来る保護者に「いつもぎりぎりですね」と云ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と云ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	B
地域貢献	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	B
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	B

保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識をして指導している

B

園長所感

菊地学園の理念方針目標を理解しようとし、実践に移すことで学園が目指す保育ができるようになると思う。0～2歳児の小規模保育園のため、子どもたちに寄り添ったいい保育、大きなおうちにいるような温かな保育、小さな自己選択ができる環境等を整え、系列の附属保育園と共に足並みをそろえ、連携園であるしらこぼと幼稚園への入園につながるよう保育を心掛けている。今後も引き続きすべての評価項目が「大変良い」となるように、職員全員でコミュニケーションを取りより良い園となるよう努める。

令和6年度 学校法人菊地学園「こころの花」ほいくえん登戸駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	B
主体的な保育・ついで	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰らなければならないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	B
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	B
	子どもへの介助は、言葉をかけてからしている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	B
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	B
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉がけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉がけを心がけている	B
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	B
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉がけにならないようにしている	B
	次の活動に期待が持てるような言葉がけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	B
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	B
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	B
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	B
	オムツ替えが流れ作業になっていない	B
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	B
	食材に興味を持てるような言葉がけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	B
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	B
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはしない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	B
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	B
	年齢別のプレチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	B
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	B
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	B
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引き継ぎをおこなっている。	B
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	B
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	B
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	B
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」などと云ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えに来る保護者に「いつもぎりぎりですね」と云ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と云ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
地域貢献	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A

保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識をして指導している

B

園長所感

園として「理念・方針・目標」を大切に保育を進めてきた。毎月のクラスmtでは「理念・方針・目標」を真ん中に置いて保育内容や環境を考えてきた結果として「法人理解」の全項目がA評価となったのではないかと考える。この部分においては次年度も引き続き実施する。「主体的な保育・ていねいな保育」の項目において昨年度よりもBの評価が多かった。園としてはC評価の「一部検討を要する」はなく、全てAとBの評価ではあった。だが職員一人ひとりで考えた場合には、個々によって課題が違うため園長面談や日々のコミュニケーションの中で課題を抽出し、具体的な行動を共に考えて課題解決に繋がった。その際は園長だけで進めるのではなく、主任や副主任と連携を図り進めることを意識した。

次年度以降もクラスmt(月1回)や職員会議(月一回※昼礼は週3階実施)継続して実施をし、題材を決めて職員で保育を考える時間を設ける。その際に「当たり前を疑い、当たり前を見直す」ことを意識してディスカッションができるようにしたい。

令和6年度 学校法人菊地学園 「こころの花」ほいくえんレイクタウン駅 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	総評
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書けて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰るときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはしない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからしている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	B
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとすることはせず、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	B
	衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A
	食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている
食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある		A
苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いして食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している		A
食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている		A
食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している		A
野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している		B
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている		A
日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A	

保護者との関わり	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	B
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	B
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	B
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	B
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	B
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	B
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやっつて。できないなら後ろに行って。」となどと言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「〇〇ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「〇〇しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですな」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
地域貢献	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	B
	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A

保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識をして指導している

A

園長総評

全体総評の結果のみで判断をせず、一人ひとりが振り返りながら保育の質向上に勤め、また園内での情報共有等を確実に行ない、保育担当・事務担当・給食担当皆で『ONE TEAM』をテーマに、子どもたちの為に安心安全な保育に取り組めるよう配慮して心掛ける。そして子ども一人ひとりの成長に合わせ寄り添いながら穏やかな保育を行い、園として保育の質の向上に努める。

【主体的な保育でいねいな保育】

- ◆ 遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている：B
- ◆ 人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている：B

【食育】

- ◆ 野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している：B

【保護者との関わり】

- ◆ 保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。：B

【安全管理】

- ◆ 事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている：B
- ◆ ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている。：B
- ◆ 自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。：B

【人材育成】

- ◆ 積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる：B
- ◆ 研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる：B

【記録の計画と活用】

- ◆ 職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている：B

【地域貢献】

- ◆ 日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している：B

上記の項目の評価がBの部分になり課題を抽出して解決に努める事と園として明確にすることで、職員一人ひとりが具体的な行動に移せるようにする。

令和6年度 学校法人菊地学園「こころの花」ほいくえん南流山駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育・ついで	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰らなければならないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからしている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	B
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉がけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉がけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉がけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉がけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A	
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉がけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはしない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	A
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	B
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引き継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	B
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやつて。できないなら後ろに行って。」などと云ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えに来る保護者に「いつもぎりぎりですね」と云ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と云ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
地域貢献	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A

保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識をして指導している

A

園長所感

全体の評価としてA評価が多い結果となった。今後は結果に満足せず、良い部分は維持できるよう取り組み、B評価となった箇所はしっかりと分析を行い、A評価となるよう仕組みづくりを行う。職員個々の能力を高めることで、より一層安心に繋がる保育が提供できると感じている。保育を学ぶ機会を設け、スキルアップをすることで、実感として保育の楽しさを知り、モチベーションに繋がると考える。そのためにも学んだ事は実践に繋がるようアウトプットの場を設ける。職員会議やDayミーティングなど保育を中心とした話し合いの場はこれまでも設けていたが、より密に話す時間を確保することで保育の質の向上に努め園全体の底上げをする。

今できていることを維持するためにも、できていると過信するのではなく、定期的な確認を続け組織としてより安心安全な保育を目指し連携を図る。